



第5回 関係機関との連携

学校や児相をはじめとする関係機関とは、日常的かつ積極的な関わりを心がけている。

はなの家は県庁所在地である宇都宮市にあり、周辺には乳児院や児童養護施設、母子生活支援施設などの社会的養護関連の施設も多く、特に児相は徒歩10分くらいの近距離にある。互いの行き来も容易であり、問題発生時の対応ばかりではなく養育相談などシングルマザーの私にとって心強い存在である。また、担当の児童福祉司と一緒に食事をしてもらったり、お祝い行事に招待したり、ともに子どもの成長を見守る機会をつくるようにしている。

施設や里親家庭に限らず、すべての人たちの子育ては家庭内だけで完結するものではない。むしろ、成長とともに社会に育ててもらうことが多くなる。特に子どもたちが1日の大半を過ごすことになる学校との連携は重要であり、欠かすことができない。

保護者として学校との関わりが増えていくなかで、高校のPTA会長としての要請を受けたことがある。幸いにも子どもの理解が得られたため、里親家庭であることを伏せずに活動し、学校や保護者だけではなく教育機関のネットワークにも社会的養護である里親制度やファミリーホームについての理解を深めてもらうことができた。同時に、同じ世代の子がいる一般家庭の状況をも垣間見るなど、私自身の社会化でもあったように思う。こういった機会を与えてくれた学校関係者や子どもに感謝せずにはいられない。

社会的養護につながってくる子どもたちの養育は、その子の成長発達の中途から始まる。学校には、新しい環境に適応する過程で起きる子どもの行動や、不適切な環境下での育ちの影響などを児相と連携しながら伝えるようにしている。また、学校へ日常的に訪れ、先生方と直接情報交換等もしている。現在、はなの家では5人中・高生男児が暮らしている。決して安泰な日々ばかりではなく、子どもの問題への対応に追われることもあるが、こうした連携が困った事態を想定内の事態として受け止められて、迅速な対応につながっているように思う。

このように学校は、私にとって子育てチームの一員であり、養育するうえでとても心強い存在となっている。